

今日から二学期が始まりました。よろしくお願ひします。

この夏は 3 年ぶりにどこかに出かけられたお家もあったのではないのでしょうか。私は福島に行ってきました。一番の目標に考えていたのは、やはり東日本大震災の被害からの復興がどの程度進んでいるかです。震災遺構を見学して津波のエネルギーのすごさも確認したいと思っていました。



福島県いわき市浪江町にある請戸（うけど）小学校、ここは現在福島県の震災遺構になっています。当時学校にいた子供たちは 82 人、教職員 13 人と合わせて 95 人がいました。海からの距離は 300m、地震があったときはすぐに 7m の津波警報が出たそうです。地震で電気は止まったのですが、少し前にソーラーパネルが設置されて、テレビの電源がとれたそうです。

校舎には屋上がありません。屋根の形が三角なのです。校庭に避難していた子供たちは 2km 離れた「大平山」（標高 396.8m）まで避難することになりました。6 年生が先頭で走り始めたのですが、低学年で泣き出す子もあり、手をつないだりとなりを走って励ましたりしたそうです。

山に近づいてくると 4 年生の子が「だいぶ手前のところで「ここから山に入れる」と近道を教えてくれました。10～15 分ぐらいの時間短縮になったそうです。全員が避難して人数確認を終えた後先生数人がもと来た道をもどってみると、山のふもとまで津波の水が来ていたそうです。



この物語はまだまだ続くのですが、気になる方は「請戸小学校 奇跡」と検索すると「避難した山のふもとまで…」というページが出てきます。学校に勤める者として、災害が起きたときの子供たちの安全の確保、状況に応じた判断するための思考力を常に鍛えておきたいと、改めて思いました。

福島県の復興はまだ道半ば、常磐自動車道はところどころに放射線量の掲示板があるし、「これより先は入れません」と表示された道路通行止めの柵があちこちにありました。